

# 双対

alg-d

[http://alg-d.com/math/kan\\_extension/](http://alg-d.com/math/kan_extension/)

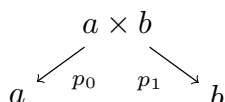
2016年8月15日

圏論における概念に対して，射の向きを逆にして得られる概念を双対概念という．

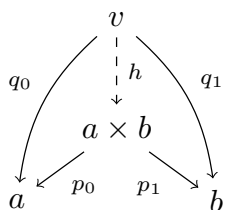
## 1 余極限

圏  $C$  の対象  $a, b \in C$  に対して， $a$  と  $b$  の直積とは三つ組  $\langle a \times b, p_0, p_1 \rangle$  であって以下の条件を満たすものであった．

- (1)  $a \times b$  は  $C$  の対象である．
- (2)  $p_0: a \times b \rightarrow a$  ,  $p_1: a \times b \rightarrow b$  は  $C$  の射である．



- (3)  $\langle v, q_0, q_1 \rangle$  が同じ条件 (即ち， $v$  が対象で  $q_0: v \rightarrow a$  ,  $q_1: v \rightarrow b$  が射となる) を満たすならば，射  $h: v \rightarrow a \times b$  が一意に存在して  $q_0 = p_0 \circ h$  ,  $q_1 = p_1 \circ h$  となる．即ち次の図式が可換である．



この定義において，射の向きを全て逆にしたものを考えることができる．これを直積の双対といい，余直積と呼ぶ．(双対は「余」(英語では co) を付けて表すことが多い．) つまり余直積の定義は次のようになる．

定義. 圏  $C$  の対象  $a, b \in C$  の余直積 (coproduct) とは, 三つ組  $\langle a \amalg b, p_0, p_1 \rangle$  であって以下の条件を満たすものである.

- (1)  $a \amalg b$  は  $C$  の対象である.
- (2)  $p_0: a \rightarrow a \amalg b, p_1: b \rightarrow a \amalg b$  は  $C$  の射である.

$$\begin{array}{ccc} & a \amalg b & \\ & \nearrow p_0 \quad \nwarrow p_1 & \\ a & & b \end{array}$$

- (3)  $\langle v, q_0, q_1 \rangle$  が同じ条件 (即ち,  $v$  が対象で  $q_0: a \rightarrow v, q_1: b \rightarrow v$  が射となる) を満たすならば, 射  $h: a \amalg b \rightarrow v$  が一意に存在して  $q_0 = p_0 \circ h, q_1 = p_1 \circ h$  となる. 即ち次の図式が可換である.

$$\begin{array}{ccc} & v & \\ & \uparrow h & \\ & a \amalg b & \\ & \nearrow p_0 \quad \nwarrow p_1 & \\ a & & b \end{array} \quad \begin{array}{c} \curvearrowright q_0 \\ \curvearrowleft q_1 \end{array}$$

つまり圏  $C$  における  $a$  と  $b$  の余直積とは, 圏  $C^{\text{op}}$  における  $a$  と  $b$  の直積である. 終対象, pullback, equalizer についても同様に双対を考えることができ, それを始対象, pushout, coequalizer と呼ぶ. 定義を書き下すと以下のようなになる.

定義. 対象  $u \in C$  が始対象 (initial object)

$\iff$  任意の  $v \in C$  に対して射  $u \rightarrow v$  が一意に存在する.

始対象は記号  $0$  で表すことが多い.

定義.  $C$  を圏,  $a, b, c \in C$  を対象,  $f: c \rightarrow a, g: c \rightarrow b$  を射とする.

$$\begin{array}{ccc} c & \xrightarrow{g} & b \\ f \downarrow & & \\ a & & \end{array}$$

$f$  と  $g$  の pushout とは, 三つ組  $\langle a \amalg_c b, p_0, p_1 \rangle$  であって以下の条件を満たすものである.

- (1)  $a \amalg_c b$  は  $C$  の対象である.

- (2)  $p_0: a \rightarrow a \amalg_c b, p_1: b \rightarrow a \amalg_c b$  は  $C$  の射で,  $p_0 \circ f = p_1 \circ g$  を満たす (即ち次の図式が可換である).

$$\begin{array}{ccc} c & \xrightarrow{g} & b \\ f \downarrow & & \downarrow p_1 \\ a & \xrightarrow{p_0} & a \amalg_c b \end{array}$$

- (3)  $\langle v, q_0, q_1 \rangle$  が同じ条件 (即ち,  $v$  が対象で  $q_0: a \rightarrow v, q_1: b \rightarrow v$  が射で,  $q_0 \circ f = q_1 \circ g$  となる) を満たすならば, 射  $h: a \amalg_c b \rightarrow v$  が一意に存在して  $q_0 = h \circ p_0, q_1 = h \circ p_1$  となる. 即ち次の図式が可換である.

$$\begin{array}{ccc} c & \xrightarrow{g} & b \\ f \downarrow & & \downarrow p_1 \\ a & \xrightarrow{p_0} & a \amalg_c b \\ & \searrow q_0 & \downarrow h \\ & & v \end{array}$$

$q_1$

定義.  $C$  を圏,  $a, b \in C$  を対象,  $f, g: a \rightarrow b$  を射とする.  $f$  と  $g$  の coequalizer とは, 組  $\langle u, e \rangle$  であって以下の条件を満たすものである.

- (1)  $u$  は  $C$  の対象である.  
 (2)  $e: b \rightarrow u$  は  $C$  の射で,  $e \circ f = e \circ g$  を満たす.

$$a \begin{array}{c} \xrightarrow{f} \\ \xrightarrow{g} \end{array} b \xrightarrow{e} u$$

- (3)  $\langle v, e' \rangle$  が同じ条件 (即ち,  $v$  が対象で  $e': b \rightarrow v$  が射で,  $e' \circ f = e' \circ g$  となる) を満たすならば, 射  $h: u \rightarrow v$  が一意に存在して  $e' = h \circ e$  となる. 即ち次の図式が可換である.

$$a \begin{array}{c} \xrightarrow{f} \\ \xrightarrow{g} \end{array} b \begin{array}{c} \xrightarrow{e} \\ \searrow e' \end{array} \begin{array}{c} u \\ v \end{array}$$

$h$

余直積などの定義は, 射の向きを逆にしただけなので, 直積などと同様の定理が成り立つことが分かる (証明における射の向きを逆にすればよい). 例えば

命題 1.  $C$  を圏,  $a, b \in C$  を対象とする.  $\langle u, p_0, p_1 \rangle, \langle v, q_0, q_1 \rangle$  を  $a$  と  $b$  の余直積とする. このとき同型  $u \cong v$  が成り立つ.  $\square$

命題 2. 図式

$$\begin{array}{ccccc} a & \longrightarrow & b & \longrightarrow & c \\ \downarrow & & \downarrow & & \downarrow \\ x & \longrightarrow & y & \longrightarrow & z \end{array}$$

において左の四角が pushout を与えているとする. このとき

右の四角が pushout を与える  $\iff$  外側の四角が pushout を与える

$\square$

命題 3. 圏  $C$  が余直積と coequalizer を持つとき, pushout を持つ.  $\square$

## 2 モノ射・エピ射

双対の例として, ここではモノ射・エピ射を取り上げる.

定義. 射  $f: a \rightarrow b$  がモノ射 (monomorphism)

$\iff c \in C$  を対象,  $g, h: c \rightarrow a$  を射とするとき,  $f \circ g = f \circ h$  ならば  $g = h$  である.

$$c \begin{array}{c} \xrightarrow{g} \\ \xrightarrow{h} \end{array} a \xrightarrow{f} b$$

定義. 射  $f: a \rightarrow b$  がエピ射 (epimorphism)

$\iff c \in C$  を対象,  $g, h: b \rightarrow c$  を射とするとき,  $g \circ f = h \circ f$  ならば  $g = h$  である.

$$a \xrightarrow{f} b \begin{array}{c} \xrightarrow{g} \\ \xrightarrow{h} \end{array} c$$

モノ射とエピ射は互いに双対である.

例 4. Set におけるモノ射とは単射であり, エピ射とは全射である.  $\square$

この例から, モノ射は単射を, エピ射は全射を一般化したような概念だと思えることができる. 但し, 圏によってはモノ射が単射, エピ射が全射であるとは限らないので注意が必要である.

例 5. 例えば CRing を単位的可換環と環準同型がなす圏として, 包含写像  $i: \mathbb{Z} \rightarrow \mathbb{Q}$  を考える. 環順同型  $f: \mathbb{Q} \rightarrow R$  は  $f(1)$  の値で定まるから,  $i$  はエピ射であることが分かる. しかし  $i$  は全射ではない.  $\square$

命題 6.  $f: a \rightarrow b, g: b \rightarrow c$  を射とする.

- (1)  $f, g$  が共にモノ射ならば  $g \circ f$  もモノ射である.
- (2)  $g \circ f$  がモノ射ならば  $f$  もモノ射である.
- (3)  $f, g$  が共にエピ射ならば  $g \circ f$  もエピ射である.
- (4)  $g \circ f$  がエピ射ならば  $g$  もエピ射である.

証明. 3, 4 は双対なので, 1, 2 を示せばよい.

(1)  $f, g$  をモノ射とする.  $h, k: d \rightarrow a$  を  $(g \circ f) \circ h = (g \circ f) \circ k$  となるように取る.

$$d \begin{array}{c} \xrightarrow{h} \\ \xrightarrow{k} \end{array} a \xrightarrow{f} b \xrightarrow{g} c$$

すると  $g \circ (f \circ h) = g \circ (f \circ k)$  だから,  $g$  がモノ射であることより  $f \circ h = f \circ k$  である. よって  $f$  がモノ射であることから  $h = k$  となる. 故に  $g \circ f$  はモノ射である.

(2)  $g \circ f$  がモノ射だとする.  $h, k: d \rightarrow a$  を  $f \circ h = f \circ k$  となるように取る.

$$d \begin{array}{c} \xrightarrow{h} \\ \xrightarrow{k} \end{array} a \xrightarrow{f} b \xrightarrow{g} c$$

このとき  $g \circ f \circ h = g \circ f \circ k$  だから,  $g \circ f$  がモノ射であることより  $h = k$  である.  $\square$

命題 7. 同型射はモノ射かつエピ射である.

証明. 双対を考えればよいから, 同型射がモノ射であることのみ示せばよい.

$f: a \rightarrow b$  を同型射,  $f^{-1}: b \rightarrow a$  をその逆射とする. 対象  $c \in C$  と射  $g, h: c \rightarrow a$  を  $g \circ f = h \circ f$  となるように取る.

$$c \begin{array}{c} \xrightarrow{g} \\ \xrightarrow{h} \end{array} a \begin{array}{c} \xleftarrow{f} \\ \xleftarrow{f^{-1}} \end{array} b$$

このとき  $g = g \circ f \circ f^{-1} = h \circ f \circ f^{-1} = h$  である.  $\square$

例 8. モノ射かつエピ射ならば同型射, は一般には成り立たない<sup>\*1</sup>. 例えば先の例で出

<sup>\*1</sup> これが成り立つ圏は balanced であるという.

てきた CRing における射  $i: \mathbb{Z} \rightarrow \mathbb{Q}$  はモノ射かつエピ射であるが、同型射ではない。 □

命題 9. 圏  $C$  が終対象  $1$  を持つとき、任意の射  $f: 1 \rightarrow a$  はモノ射である。

証明.  $b \in C$  を対象としたとき、射  $b \rightarrow 1$  はただ一つしかないから明らか。 □

命題 10. 射  $f: a \rightarrow b$  がモノ射  $\iff$  次の図式が pullback を与える。

$$\begin{array}{ccc}
 a & \xrightarrow{\text{id}_a} & a \\
 \text{id}_a \downarrow & & \downarrow f \\
 a & \xrightarrow{f} & b
 \end{array}$$

証明. ( $\implies$ )  $f: a \rightarrow b$  をモノ射とする。任意の  $c \in C$  と  $q_0, q_1: c \rightarrow a$  で  $f \circ q_0 = f \circ q_1$  となるものを取る。

$$\begin{array}{ccc}
 c & \xrightarrow{q_1} & a \\
 \text{---} h \text{---} \searrow & & \downarrow \text{id}_a \\
 & & a \xrightarrow{\text{id}_a} a \\
 q_0 \searrow & & \downarrow \text{id}_a \\
 & & a \xrightarrow{f} b
 \end{array}$$

$f$  がモノ射だから  $q_0 = q_1$  である。よって  $h = q_0$  と取れば図式が可換になる。また明らかにこのような  $h$  は一意である。故にこの図式が pullback となることが分かった。

( $\impliedby$ ) 次の図式で右下の四角が pullback を与えるとする。  $g, h: c \rightarrow a$  が  $f \circ g = f \circ h$  を満たすとする。

$$\begin{array}{ccc}
 c & \xrightarrow{h} & a \\
 \text{---} k \text{---} \searrow & & \downarrow \text{id}_a \\
 & & a \xrightarrow{\text{id}_a} a \\
 g \searrow & & \downarrow \text{id}_a \\
 & & a \xrightarrow{f} b
 \end{array}$$

このとき pullback の普遍性から点線の射  $k: c \rightarrow a$  が存在して可換となる。従って  $g = k = h$  となるから、 $f$  はモノ射である。 □

命題 11.  $f: a \rightarrow c$  をモノ射で,  $g: b \rightarrow c$  を射として,  $f$  と  $g$  の pullback が存在するとする. 次の図式をその pullback とするとき,  $p_1$  もモノ射である.\*2

$$\begin{array}{ccc} a \times_c b & \xrightarrow{p_1} & b \\ p_0 \downarrow & & \downarrow g \\ a & \xrightarrow{f} & c \end{array}$$

証明.  $x \in C$  を対象,  $h, k: x \rightarrow a \times_c b$  を射として  $p_1 \circ h = p_1 \circ k$  であるとする.

$$\begin{array}{ccc} x & \begin{array}{c} \xrightarrow{h} \\ \xrightarrow{k} \end{array} & a \times_c b \xrightarrow{p_1} b \\ & & p_0 \downarrow \quad \downarrow g \\ & & a \xrightarrow{f} c \end{array}$$

このとき  $f \circ p_0 \circ h = g \circ p_1 \circ h = g \circ p_1 \circ k = f \circ p_0 \circ k$  である.  $f$  がモノ射だから  $p_0 \circ h = p_0 \circ k$  を得る. よって次の二つの図式は可換である.

$$\begin{array}{ccc} & & x \xrightarrow{p_1 \circ h = p_1 \circ k} b \\ & \searrow h & \downarrow p_0 \\ x & & a \times_c b \xrightarrow{p_1} b \\ & \searrow p_0 \circ h = p_0 \circ k & \downarrow p_0 \\ & & a \xrightarrow{f} c \\ & & \downarrow g \\ & & c \end{array} \quad \begin{array}{ccc} & & x \xrightarrow{p_1 \circ h = p_1 \circ k} b \\ & \searrow k & \downarrow p_0 \\ x & & a \times_c b \xrightarrow{p_1} b \\ & \searrow p_0 \circ h = p_0 \circ k & \downarrow p_0 \\ & & a \xrightarrow{f} c \\ & & \downarrow g \\ & & c \end{array}$$

従って普遍性から  $h = k$  が分かる. □

命題 12. 次の図式が equalizer を与えるとする.

$$a \xrightarrow{f} b \begin{array}{c} \xrightarrow{g} \\ \xrightarrow{h} \end{array} c$$

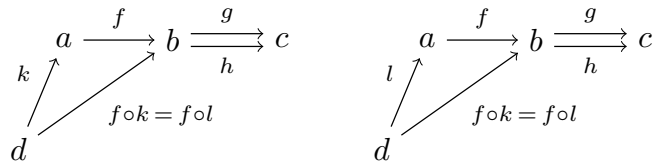
このとき  $f$  はモノ射である.

\*2 一般に pullback において,  $p_1$  を  $f$  の  $g$  に沿った pullback と呼ぶ. よってこの命題は「モノ射の pullback はモノ射」と言い表すことができる.

証明.  $k, l: d \rightarrow a$  を射として  $f \circ k = f \circ l$  であるとする .

$$d \begin{array}{c} \xrightarrow{k} \\ \xrightarrow{l} \end{array} a \xrightarrow{f} b \begin{array}{c} \xrightarrow{g} \\ \xrightarrow{h} \end{array} c$$

このとき  $g \circ f \circ k = h \circ f \circ k$  ,  $g \circ f \circ l = h \circ f \circ l$  である .



よって equalizer の普遍性から  $k = l$  が分かる . □

双対を考えれば次の命題が成り立つことが分かる .

命題 13. 圏  $C$  が始対象  $0$  を持つとき , 任意の射  $f: a \rightarrow 0$  はエピ射である . □

命題 14. 射  $f: a \rightarrow b$  がエピ射  $\iff$  次の図式が pushout を与える .

$$\begin{array}{ccc} a & \xrightarrow{f} & b \\ f \downarrow & & \downarrow \text{id}_b \\ b & \xrightarrow{\text{id}_b} & b \end{array}$$

□

命題 15.  $f: c \rightarrow a$  をエピ射で ,  $g: c \rightarrow b$  を射として ,  $f$  と  $g$  の pushout が存在するとする . 次の図式をその pushout とするとき ,  $p_1$  もエピ射である .

$$\begin{array}{ccc} c & \xrightarrow{g} & b \\ f \downarrow & & \downarrow p_1 \\ a & \xrightarrow{p_0} & a \amalg_c b \end{array}$$

□

命題 16. 次の図式が coequalizer を与えるとする .

$$a \begin{array}{c} \xrightarrow{g} \\ \xrightarrow{h} \end{array} b \xrightarrow{f} c$$



このとき  $f$  はエピ射である .

□